

おほるがはるぐひにきゐる山鳥うのまねすともうをはとらじな

〔當世武野俗談〕根津の鳥お岩

根津の遊女に川島やのお岩と云有是を鳥岩々と云其いはれ此女小袖のもやうすべての道具に悉く鳥を付たり塗枕にまで鳥を繪がせり夏冬の衣裳寢道具にも皆鳥を付るなり何として鳥を付ると謂を聞けるに此女が親甚かるき者にて今日のいとなみもつきはて據なきに付二人の親の爲に此根津へ身を賣られたりされども更に親を恨る心なく此お岩が平生申けるは人倫として親を思はぬは有べからず鳥と云鳥は反哺の孝とて親を養ひ返すとかや然ば人間の子として親を養はずんば有べからずとて勤の中も兩親を大切にして客を大事によく勤を丁寧にして金銀不時に得る時は己が爲にせず兩親をみつぎけるされば反哺の孝を忘れまじきとて鳥を何にもかにも付たり夫故鳥お岩といふ名をば取り

〔嬉遊笑覽禽十二〕からすかん左衛門うぬが内はやける早くいつて水かけろといふ童こそ鶉のまねする鳥は水をのむといへる諺よりいへるものならん鶉のまねするなら早く行て水あびろなど云けむを内は焼ると誤りたるは再按にからすの行水と鶉とべば火ばやしといへるを混ひしなるべし宗因獨吟鶉の飛ほど油斷せず京火ばやいとよその夕暮御用心また鶉のまねは佐夜中山集に水心もや波の河筋鶉のまねを洲崎の鳥羽つくろい略○下

〔甲子夜話十四〕或人曰鳥ハ神ヲ喜テ佛ヲ喜バズ日光山御宮ノ森ニ夥シク棲デ猷窟ノ森ニハ宿セズ都下ニテモ御城内ノ紅葉山鳥ノ宿所トナリテ芝上野兩山ニハ多ク宿セズ是ヲ以テ見ルベシト云イカサマ其如クナリ何ノ故ナルヲ知ルベカラズ

〔田舎莊子上〕鶯鳥巧拙

鶯と鳥と遊ぶ鳥の云略○中 我は人家に凶事あれば往て未然に告しらしむ然るに人々奇特也と